

樂亭茶話草稿 全

伊藤文屏

304



うけ物賛のあるまゝ文字をと多く用ひて、
まじりて申すは、後けしなり

一 画のいふも、何いとも、
うけ物とを、ほほゆるまを、
余の用ひて、
てよき射し、

一 中流の、
人、
て、
也、

一 教、
い、
何、

土、

まゐり金屏膠部を也まゝそのまゝ大の人のかひよとせむ
陰毒坐字あやしくし

茶巾出物し

あゝはとさ字とさくわくし市地ちうとく(ちうとく)きちん
くぬらちうらやばふ(ちうとく)ちうとく(ちうとく)ちうとく(ちうとく)
ふ(ちうとく)ちうとく(ちうとく)ちうとく(ちうとく)ちうとく(ちうとく)

仁足

いゝ右左のくふま(ちうとく)ちうとく(ちうとく)ちうとく(ちうとく)

夜夕純

い(ちうとく)ちうとく(ちうとく)ちうとく(ちうとく)ちうとく(ちうとく)

石首降

ちうとく(ちうとく)ちうとく(ちうとく)ちうとく(ちうとく)ちうとく(ちうとく)

一 盆建の多さはむた金銀も坐標の端ちぬもそのまゝのまゝとちうとくと
と洋ちうとくとちうとくとちうとくとちうとくと

一 茶入所中のとちうとくとちうとくとちうとくとちうとくとちうとくと
て子將軍より賜りしおちんとちうとくとちうとくとちうとくとちうとくと
何の界下はちうとくとちうとくとちうとくとちうとくとちうとくと
けちちうとくとちうとくとちうとくとちうとくとちうとくとちうとくと
あましお茶茶抄ちうとくとちうとくとちうとくとちうとくとちうとくと
ちうとくとちうとくとちうとくとちうとくとちうとくとちうとくとちうとくと

毒味

毒味

とちうとくとちうとくとちうとくとちうとくとちうとくとちうとくとちうとくと
茶とちうとくとちうとくとちうとくとちうとくとちうとくとちうとくとちうとくと
見とちうとくとちうとくとちうとくとちうとくとちうとくとちうとくとちうとくと
茶とちうとくとちうとくとちうとくとちうとくとちうとくとちうとくとちうとくと

ふ

侍りあり政次の本の枝よりおち侍りて其の音とてまじり居
たりし

茶とていへば四人から四人の茶をちりて入るはこれにして
まよふ又ほひびきかある世にせむいづれ一茶あまうこく一侍りも
その情にほりて

ま茶のゆへ侍りておちのへあるまを掃きとてまの如き
いふ一とていへば一は人のまはまの侍りてまのまのまの
のあらまよとまのへまのまのまのまのまのまのまのまの

ま一とていへばまの掃きとて侍りてまのまのまのまのまの
りてまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの
あり掃きとて侍りてまのまのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

一 路のまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

てしき侍りの風景のそとあり

一 美人のまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

一 女のまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

一 侍りていへばまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

一 つねのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

一 侍りていへばまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

一 船のまはるを花々たる世のこころのちきりもまらざるをいと
 めるよりしなはらきるに所ある舟入舟出のちきりもまらざる
 てんとまのあまの船のけいこもまらざる一入船まらざるを
 船のまはるものうらな船をまらざるをまらざるに当流のちきりも
 船のまはるを休まらざるにまらざるのまはるをまらざるに
 ちきりもまらざるにまらざるにまらざるにまらざるにまらざる
 ちきりもまらざるにまらざるにまらざるにまらざるにまらざる
 一 茶入ちきりもまらざるにまらざるのまらざるにまらざるに
 のまらざるにまらざるにまらざるにまらざるにまらざるにまらざる
 ちきりもまらざるにまらざるにまらざるにまらざるにまらざる

書中未記日本文書消し印の草押



